平成２８年度　第２回　南風原町まちづくり住民会議概要

日　時：平成 28 年６月２１日（火）１９時 10 分～21 時 10 分
場　所：南風原町役場３階　庁議室
参加人数：２７人

■住民会議の内容（次第）

１．開会
２．基本計画検討資料について
３．フリーディスカッション
４．その他
５．閉会

■フリーディスカッションの内容

「基本計画の施策の展開案」「基本計画検討素材」について事務局から説明を行い、基本計画全体及び施策の展開に関する委員からの質問・意見は以下のとおりである。

１．四大プロジェクトについて

委員　：今回の資料では、四大プロジェクトの欄が空白になっているが、第五次ではプロジェクトを設けないということか。

事務局：四大プロジェクトをつくらないということではなく、施策の展開を議論していく中で、第五次総合計画において主として何に取組むかということが見えてくると考えている。また、第四次においては、ハード系のプロジェクトとなっていたが、第五次においては、貧困対策をはじめ、ソフト系の取り組みも重要になってくる傾向が見えてきている。それをどのような位置づけにするかも含め、今後検討していくことを考えている。

委員　：四大プロジェクトのような柱が第五次においても必要だと思う。まちづくり目標の一番目が「みんなで考え、みんなで創るわくわくするまち」となっているが、そのようなプロジェクトがないと計画に「華」がない印象になってしまい、全然わくわくしない。そういう意味で、華になり得るものは、路面電車だと思っている。例えば、東京の墨田区は、中小企業が集まるものづくりのまちであったが、時代とともに衰退してくる中、まち全体を挙げて取り組んだのが、スカイツリーの誘致に取り組み、その周辺の町工場まで活性化してきているという事例があるので、南風原においても、町全体で取組むものが必要だと思う。

委員　：公共交通の利便性を向上させる方策として、首里方面への通勤・通学や周辺市町

への広がりなどを考慮すると、個人的にはモノレールの延長が良いのではないかと思う。

委員　：計画の華につながる話だと思うが、南風原町は県内屈指の交通の利便性が高い地域である。その利便性を活かし、企業誘致や産業活性化などにも波及する南北インターチェンジ周辺の土地活用をいかにして行うかというのが、将来の南風原町を考える上でも重要なので、第五次において位置づけることも必要だと感じている。また、「安全・安心なまちづくり」を考えた際に、町民ニーズとしては、新しい公共施設、新しい道路などへの意見があると思うが、今後財政が苦しい状況の中、学校などの公共施設の長寿命化に取り組んでいきながら安全・安心なまちづくりを展開しなければならないと考えている。古い建物が残ることで、それが町の雰囲気をつくり、味につながり、魅力となると思う。

委員　：第四次の四大プロジェクトのうちの３つが兼城であったが、第五次でつくる場合には、町全体で取組めるようなものを入れるべきだと思う。例えば、「町全体が公園のようなまちづくり」という目標を掲げ、南風原町のどこを歩いても木陰に覆われている街並みをつくるということが良いのではないか。今取り組んでいる景観計画の中でも、高津嘉山などの高く、大きな緑の話が中心になっているが、歩いて見える緑（街路樹）、住宅の緑など身近なものから、高速の出口から国道につながる部分まで緑で覆い、さらに公園や河川とつなげることで、魅力あるまちになると思う。これらを取り組むにあたっては、町民や自治会、事業所などと協力しながら進めていくことが必要だと思う。

２．自治会加入の促進について

委員　：自治会加入の促進は、今後しばらく人口増加が見込まれ、さらに都市化が進展すると考えられる南風原町においては、とても重要になってくると考えている。第四次において、自治会活動への支援や活性化への取り組みが弱い印象があるので、第五次では魅力ある自治会づくりに向けて取り組んだ方が良い。

委員　：目標値についても、単に加入率を 70%、80%と非現実的に高く設定するのではなく、人口が増加する中、現状を維持するのも難しいと思うので、現実を見据えた目標値や取り組みのあり方を検討していくべきだと思う。

委員　：自治会加入の促進は、皆の知恵を絞って取り組んでいかなければならないものだと思う。自治会加入は、義務ではないので、いかに加入してもらうかというのはとても難しい事だと思う。

委員　：自治会の活性化が重要であることは認識している。しかし、価値観や生活スタイルも多様化する中、自治会へ加入する自由もあれば、加入しない自由もあり、どちらも尊重しなければならないので、その辺にジレンマを感じている。自治会加入の促進については、すぐに答えがでるものではないことから、常日頃から意識

して地道に取り組んでいく必要がある課題だと思う。

委員　：自治会に行く前の子ども会や青年会の活動が活性化し、異年齢交流をはじめ、地域の人とのつながりをもつことで、その子ども達が将来的に自治会に加入するという流れをつくれると思う。

委員　：子どもの頃は、子ども会や青年会などの活動に携わってこなかったが、今、大人になって、町の陸上競技大会など学生時代にやっていた陸上を通じて自治会と関わりをもてていることが楽しい。自治会という枠ではなくても、個人の得意なもので自治会などと関わるつながり方も必要だと思う。

委員　：ハーバード大学に関する話だが、良い大学を出ても人とつながりのない、孤独な人というのは身体的にも精神的にも不健康になるというものがあった。町民が心身共に健康でいるには、自治会や青年会などをはじめ、地域の中で孤独な人がでないように、何かしら地域とつながりを持てるようにすることが重要だと思う。それは、自治会という枠にとらわれないものがあっても良いと思う。

委員　：青年会活動に携わっているが、現状の問題点としては、まず人がいないということである。青年会に対するイメージが良くないところもあると感じており、様々な人から意見を聞きながら、今後の青年会活動を発展させていけるか検討しているところである。

３．その他施策の展開等について

委員　：福祉関連のまちづくり目標３の施策の展開については、第四次に比べて、スッキリと整理されていると感じる。しかし、まちづくり目標について、「ともにちむぐくるでつくる福祉と健康のまち」が誰とつくるのかという言葉を入れた方が皆に分かりやすいと思う。また、「ちむぐくる」という言葉については、ウチナーンチュは分かるが、県外から転居される方にも分かるように説明書きなどをいれると良いと思う。

委員　：施策の展開案を見ていると、南風原らしさというものが感じられない。病院などの医療関係施設が多いという特徴を活かした展開を図るなど、南風原らしい具体施策を盛り込んだ計画にしなければならないと思う。

事務局：今回提示した資料は、施策の整理項目として認識して頂きたい。ご意見のあった、南風原町らしい具体的な施策に係る部分については、今後、各部会ごとに議論して行く中で詰めていきたいと考えている。

４．次回スケジュールについて

事務局：次回は、部会別での開催を予定しており、７月 11 日（月）に総務部会と民生部会、12 日（火）に経済建設部会と教育部会を開催予定。